

研修名	令和6年度高知県専任教員養成講習会	
開催日時	令和6年6月3日～令和7年2月21日	
研修形態	eラーニング、集合研修	
受講者数	8名	
対象	<p>現在もしくは将来、看護基礎教育や臨床教育を希望し、以下の条件を満たしている者。</p> <p>1) 看護基礎教育に携わっており専任教員養成講習会(旧:看護教員養成講習会)未受講の者</p> <p>2) 保健師・助産師・看護師として5年以上業務(実務経験)に従事し、看護基礎教育に携わりたい者または、医療機関において看護学生および新人看護師の指導にあたっている者</p> <p>3) 保健師・助産師・看護師として3年以上業務(実務経験)に従事した者で、かつ大学および大学院において教育に関する科目(4単位以上)を履修し、単位を取得した者</p>	
ねらい	看護教育の教育実践に必要な知識・技術・態度を修得し、質の高い資質を備えた優秀な教員及び臨床教育者として夢や希望をもって創造的に活動し得る能力を啓発する。	
講師	県内、県外含め27名	
内容	基礎分野5科目、専門分野12科目の全17科目、31単位660時間および特別講義で構成	

I 科目一覧及び各科目の目標と主要内容

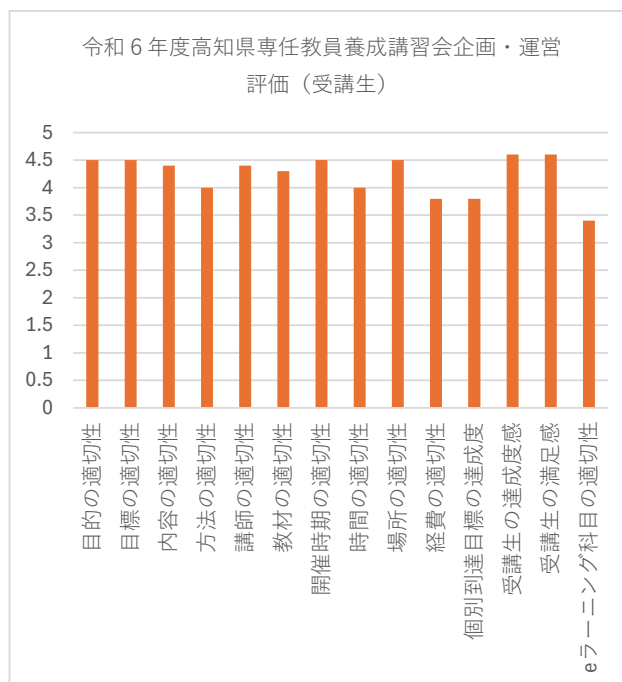
科目	目標および内容	講師
教育原理	<p>教育の本質の基本的知識、概念及び必要な理論を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育史、教育思想、教育の社会的、法・制度的事項 ・カリキュラム開発の考え方や学校教育におけるカリキュラムの役割等についての理論的背景及び学力との関わり、カリキュラム開発・適応における教師の専門性 ・教育の経営的事項、教育の現代的課題 	eラーニング
教育方法	<p>授業について様々な視点から検討する。学校や教室といった制度的な学習の場の特質、教育実践を方向付ける学力論や学習論、学習者論、授業の構造や授業デザインの方法、コミュニケーションとして教育実践をとらえる視点、専門家としての教師の学習や発達を理解することを目指す。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子供がどう生きているのかということを追及していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室を中心とした制度的な学習の場の特質 ・現代の学力論や学習論の動向 ・授業の構造をとらえるための視点や授業デザインの原理 ・授業のコミュニケーションの特質と授業での教師の役割 ・専門職としての教師の学習と発達の特徴 	eラーニング
教育心理	<p>教育心理学の中核である「学習」と「発達」に関する心理学的知見を中心に講義。学習については、現代心理学の潮流である認知主義の観点から、認知過程についてやや詳しく述べる。全体の講義を通して、昨今の教育における問題点を明らかにし、その解決に向けてどのように対処すればよいかという視点から解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と発達に関連する理論や概念 ・成長発達に伴う学習者心理の特徴 ・学習過程における心理的特徴と教育方法 ・学習者の反応や状況の心理学的理解 	eラーニング
教育委評価	<p>教育評価の目的、機能、方法などによって整理された基本概念やそれぞれの評価の問題点を記憶し、重要な用語を体系的に選択できるようになることを目的とする。具体的な内容として、教育の目的や評価の観点に対応した評価の種類や基本的なテスト理論を説明し、学習者や学習成果を評価する際に考慮すべきポイントをまとめる。また、基本的な知識を実践につなげるための足掛かりとして、授業自体や教師を対象とした評価の意味やインストラクショナルデザインの考え方を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価における基本的な考え方と評価を行うことによる問題 ・教育評価の種類に応じた課題や留意点を体系的に分類 ・授業形態や授業の目標に応じたひい、おう化計画を立てるための基本的な知識 ・教員として自らの授業自体を評価する活動 	eラーニング
情報通信	<p>情報リテラシーの向上のため、情報社会に対応する基礎的知識及び看護師等養成所の組織運営に係る情報通信技術を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育におけるICT活用の必要性や動向 ・教育におけるICTの機能や特徴 ・教育におけるICT活用事例を通してのICT活用時の留意点や学習効果 ・ICTを活用した授業を推進する上で教員や学生に役立つLMSの実態と導入のメリット 	
看護論	<p>人間の健康、看護の考え方を多角的に学び、看護の視野を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践からとらえなおす看護の本質 ・人間の健康と支援 ・様々な場における看護の機能と役割 ・看護における倫理的課題とその対応 	eラーニング
看護論演習	<p>看護の本質や役割を理解し、自己の看護観を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践の振り返りと看護の本質の理解 ・看護師の役割と専門性 ・生命倫理や人権意識と看護、倫理的課題の明確化 ・自己の看護の知の言語化、明確化 ・看護教育活動への反映方法 	浦田美保 山崎和子 佐田久美子
看護教育制度論	<p>看護教育制度の変遷と現在の教育制度を理解し、これからの看護教育のあり方について考え、教育観の形成につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護教育制度の変遷と現在の教育制度 ・看護基礎教育と生涯教育 ・看護教育の意義と特徴の理解 ・看護教育における教員の役割と責務 	eラーニング
看護教育課程論	<p>看護教育課程編成の基本的な考え方を学び、看護学全体の構造を理解し、看護教育課程編成の実際を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の知識 ・看護教育課程の理解 ・看護教育課程の特徴と卒業時の到達目標 ・専門領域の特徴と主な教育内容 ・看護教育課程の編成方法の理解 ・教育課程のプロセス ・教育目的・目標の設定 ・教育内容の抽出と組織化 ・領域横断の考え方 ・教育課程 	eラーニング

看護教育課程論 演習	看護教育課程編成のプロセスを学び、看護教育のあり方を理解する。 ・看護教育課程編成の実際 看護教育のニーズと考え方の実際 教育理念,教育目的,教育目標の考え方の実際 教育内容抽出の考え方の実際 教育内容の組織化の考え方の実際 ・看護教育課程の課題	池西静江 浦田美保 山崎和子 佐田久美子
看護教育方法論	看護学における教授-学習活動と授業デザインの考え方を踏まえた授業作りの方法を学ぶ。 ・看護教育における教授・学習活動 授業の要素と関連 授業形態と指導の特徴	池西静江 野中陽一朗 水方智子 他8名
看護教育方法演習	指導案を作成し模擬講義・演習・実習を行い、その結果を考慮し看護教育方法を身につける。 ・授業(含演習)での学習指導計画、デザイン ・授業案作成と模擬授業、リフレクションによる自己課題の抽出 教材と教材研究の方法 ・授業の構成と技法 ・実習目標を踏まえた指導計画・指導案と日案の作成 ・学習者の経験を教材化する方法と具体的発問 ・カンファレンスの指	目黒悟 他4名
専門領域別看護 論演習	各専門領域別看護の教育内容、教育方法について学ぶ。 ・各領域の変遷を踏まえた教育内容と構造の理解 ・各領域の専門的研究や専門性の高い看護実践からの教育内容の明確化 ・各領域に必要な教育内容や教育方法の検討	長戸和子 他11名
看護教育評価論	看護教育内容の評価方法を理解し、その適応について学ぶ。 ・看護教育における評価の目的と機能 ・看護教育における評価目標設定と評価基準 ・看護教育における授業内容と評価用具 ・看護教育の現状と課題	eラーニング
看護教育評価演習	看護教育で活用できる評価基準の理解と作成を通し、実践した看護教育を評価する方法を学ぶ。 ・看護教育における評価基準と評価基準の作成 ・看護教育の評価方法の実際	山田円 他4名
看護学校組織運 営論	看護学校の組織運営の特性と管理の在り方を学ぶ。 ・看護師養成所の運営に関する指導ガイドライン ・看護師養成所の経営と組織運営の特性 ・看護師養成所における管理の実際 (人事管理、学級管理、事務管理、図書管理、施設・物品管理、危機管理、情報管理等) ・看護師養成所運営の評価と今後の課題	eラーニング
看護教育実習	看護教育の理論と技術を実際に適応し、教員としての基本姿勢や教育方法等を学ぶ。 ・看護学生の理解 ・講義または演習の指導計画立案と実践 ・臨地実習の指導計画立案と実践 ・実習校のカリキュラム理解 ・看護教員の在り方の理解と自己課題の明確化	県内看護専門学校3施設
特別講義	看護基礎教育の現状と展望 看護教員に期待すること 看護行政の動向	勝又明子

II アンケート結果

令和6年度高知県専任教員養成講習会 企画・運営評価（受講生）

項目	評価平均点
目的の適切性	4.5
目標の適切性	4.5
内容の適切性	4.4
方法の適切性	4
講師の適切性	4.4
教材の適切性	4.3
開催時期の適切性	4.5
時間の適切性	4
場所の適切性	4.5
経費の適切性	3.8
個別到達目標の達成度	3.8
受講生の達成感	4.6
受講生の満足感	4.6
eラーニング科目の適切性	3.4



<コメント>

III.研修評価

令和6年度高知県専任教員養成講習会企画・運営評価

1. 目的、目標達成および内容について

講習会での受講者の受講状況や受講者からのアンケート結果、講習会修了時の自己

評価をもとに評価する。長期間に及ぶ研修の中で、教育における知識・技術や教育者としての態度を学び、新たな知見を得、考え方や他者への接し方などが受講当初より変化し確かな成長につながっていた。講習会の企画・運営に関しては、アンケート結果（別紙添付）から、目的、目標、内容の適切性は高く、受講者の満足度も高かった。一方、eラーニング科目の適切性や経費の適切性についての満足度は標準的であった。eラーニングでの学びは、時間の自由性や個人のペースで学べるメリットはあるが、個人ワークでの孤独や不安があった。事務局で学習の進捗状況を確認しながら、個別もしくは全体へのメールでの支援は実施したが、さらに、きめ細かい支援内容が必要であったかもしれない。

講習会修了時の到達目標達成自己評価（別紙添付）については、3つの能力形成の目

標達成について述べる。1点目の看護基礎教育の基盤となる能力は、教育者あるいは指導者としての基本的責務や援助的人間関係を築く関わりについて理解できていた。また、教育者、指導者として倫理的実践が重要であることを高く認識することができた。2点目の看護基礎教育実践の展開能力については、標準的な能力を得ることはできたが、現状の教育の分析やカリキュラム上の課題への取り組みは、今後の課題とらえていた。臨床実習指導では、学生に寄り添い、理解を促進させるための発問の必要性を認識した指導が実施できていた。教育実践評価は、評価の考え方や手法を学んだことで、評価の妥当性について深く思考できるようになっていた。臨床との教育連携や組織でのチーム連携のあり方が、学生の学習促進に影響することを理解できていた。また、自らの担当業務に対して、他者からの意見を求める必要性を理解でき、組織の一員として実践していることを自覚できていた。3点目の看護基礎教育実践の中で研鑽する能力については、講習会中にその必要性について再認識し、今後の課題として、教員としての自己のあり方、課題の抽出と解決に向けた取り組みなど自己研鑽の必要性を自覚する講習となっていた。

2. 講師、教材の適切性について

受講生からの各科目アンケート結果は、評価、満足度ともに高かった。各講師の方々が、講習会の目標や内容を共有・理解し、各専門性を発揮した講義内容であった。シラバスに関しては、講師の意見も参考に次年度に向け、改訂箇所がいくつかあった。

3. 講習会の開催時期、時間、場所、経費の適切性について

開催時期は適切であった。時間については、県外からの受講者が、講習終了後に地元に戻ることもあり、次年度は、開始時間、終了時間を早めて開催するようにした。

場所は、適切であった。教育実習施設が遠く、宿泊費を自己負担した受講生もいた。市内の実習校（実習指導体制が整っていない）が少ないことが要因であるが、次年度は、地元で実習ができるよう各学校に働きかけていきたい。経費について、詳細な内訳が知りたかったという受講生の意見があった。詳細な内訳を示すことは困難であること説明し理解を得た。